


「生活の漢字」に焦点を当てた 日本語教育の実践とその普及



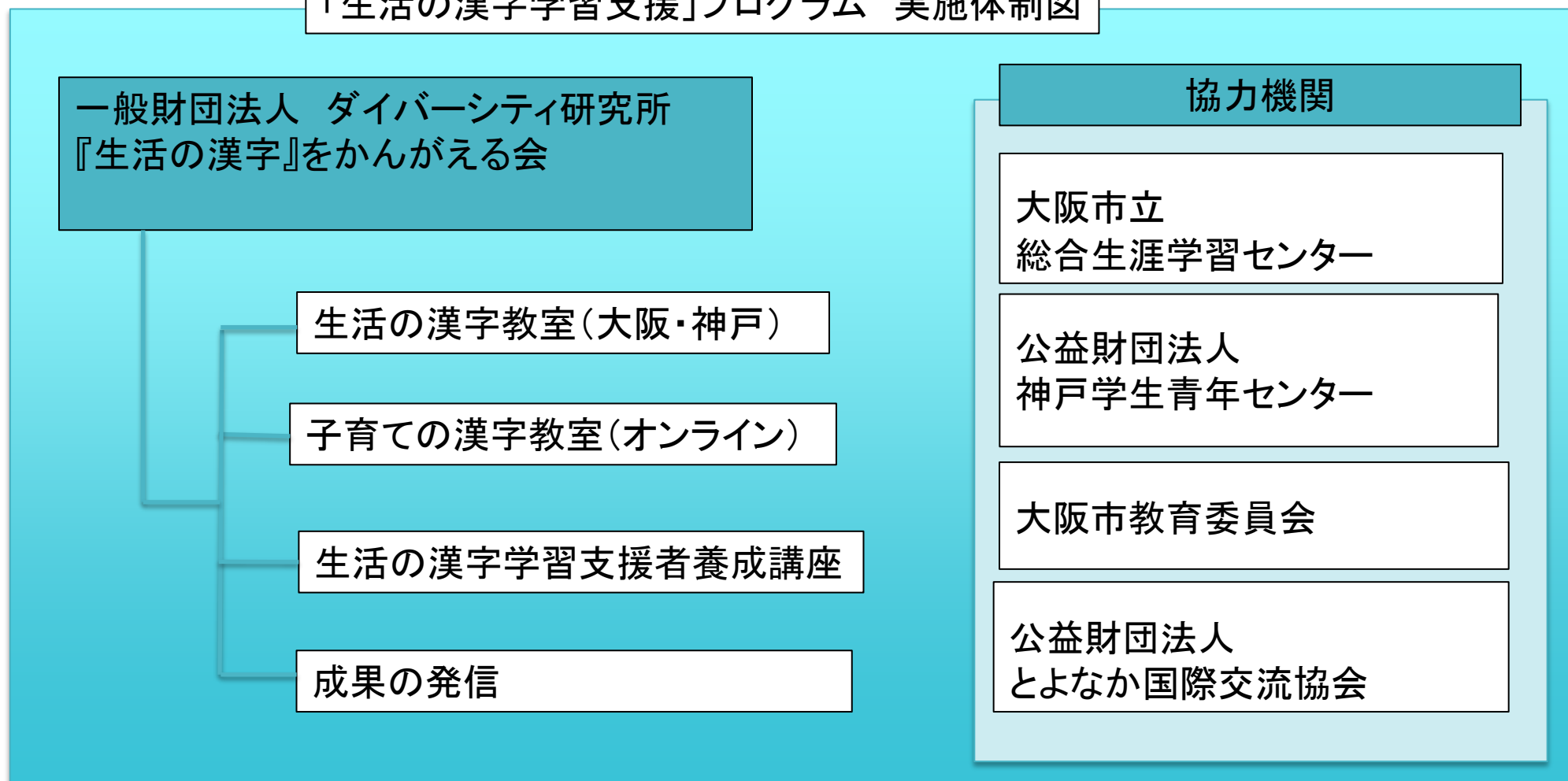
一般財団法人ダイバーシティ研究所
『生活の漢字』をかんがえる会 新庄あいみ

「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業 「生活の漢字」学習支援事業

受託者名：一般財団法人 ダイバーシティ研究所

- 主な活動地域：大阪府大阪市
- 主たる対象：生活者としての外国人、学習支援者
- 事業期間：令和3年～5年度
- 受講外国人数：約120人（実数：令和3、4、5年度合算）

「生活の漢字学習支援」プログラム 実施体制図



『生活の漢字』をかんがえる会とは

多文化共生センター大阪 理事(当時)であった永井慧子氏(平成27年 文化庁長官表彰受賞)の企画に新矢麻紀子、御子神慶子、新庄あいみが賛同し、平成18年(2006年)文化庁委嘱事業「基礎日本語教室～楽しく文字を学ぶ～」を実施。その後、「生活者としての外国人のための文字学習支援」について研究実践を行うグループを立ち上げた。現在、日本語教育および社会教育の専門家を中心に多くのメンバーが在籍し、活躍している。



文化庁事業経緯

- ・地域日本語教育支援事業(平成18,19,20年度)

- ・「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

主催: 多文化共生センター大阪 平成18年～平成29年、

ダイバーシティ研究所 平成30年～令和5年

開催場所: 大阪市総合生涯学習センター(大阪駅前、PC室あり)

- ◆文字教室 平成18,19,22,23,24,25,26,27,28,29,30,令和元, 2,3,4,5年度

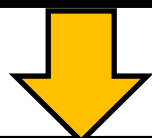
- ◆教材作成 平成20,25,26,27,28,29,30,令和元, 2,3,4年度

- ◆人材養成講座 平成25, 26, 27, 28, 29, 30,令和元, 2,3,4,5年度

出前講座 平成27,28,29,30,令和元, 2,3,4,5年度

「生活の漢字」学習支援事業の内容

課題背景「生活者としての外国人」は、文字、特に漢字は自然習得が難しく、会話はできてでも読み書きができない非識字状態に置かれている現状がある。また、地域の日本語学習支援においても会話中心の学習で、文字学習はあまり行われておらず、文字学習支援のノウハウが蓄積されていない状況にある。



課題「生活者としての外国人」にとっての文字学習（特に漢字学習）の意義がまだ十分に認識されていない。

目的①在住外国人を対象に生活で使う漢字の習得を目的とした学習の場を提供すること。

目的②「生活の漢字」学習支援者養成講座を実施し、文字学習支援の理解とノウハウを普及すること。

「生活の漢字」教室の概要



- 外国人のための生活の漢字教室
生活に必要な漢字を学び、自律学習の基礎力を
養うカリキュラム
無料開講、託児サービスあり
公共交通機関によるアクセスが便利な場所での開講
大阪市立総合生涯学習センター（JR大阪駅前）
神戸学生青年センター（阪急六甲駅前）



- 子育てのための生活の漢字教室（オンライン）
子育てに焦点を当てた生活の漢字を学ぶカリキュラム
無料開講



- 文化庁日本語教育コンテンツ共有システム（NEWS）へ
教材の提供

「今日勉強したこと」が「今日、生活のなかで使える」漢字教育

「簡単な漢字から」ではなく、「読みたい漢字」から学習する
「学ぶ→覚える→使う」から「見る→わかる→使う→覚える」へ

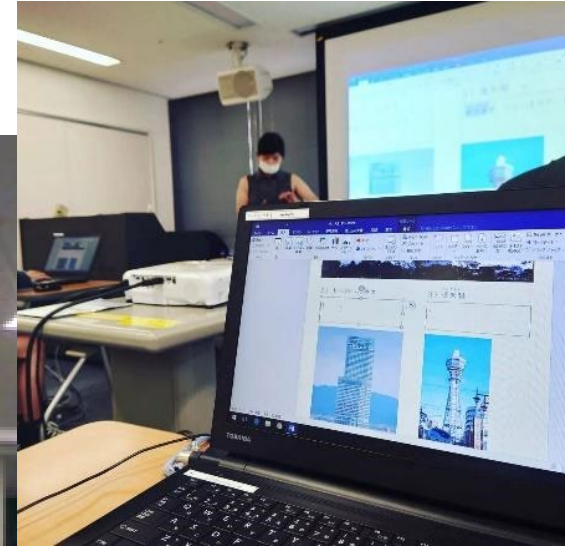
音声情報を文字情報と結びつける



「生活の漢字」教室の様子

講師1名(専門家)

受講生



学習支援者2～3名(専門家、元日本語学習者)

コーディネータを対象とした文字学習支援者養成講座(R3) オンライン研修＋「生活の漢字教室」授業見学

●各地域に文字学習支援の理解と実践を普及するために、コーディネータを対象とした「生活の漢字」の理念・方法・実践の講座を行った。また、参加者間のネットワークを構築するためにMLを発足した。

●講座内容

- 第1回 移民に対するリテラシー教育の意義
- 第2回 「生活の漢字」について 実践方法
- 第3回 地域における「文字学習支援」の現状と課題
～コーディネーターの立場から一緒に考える～
- 第4回 「生活の漢字教室」見学
- 第5回 各地域より実践報告・今後の課題について
- 第6回 教室づくりに求められるもの ～「識字」という観点から



学習支援者養成「出前」講座の概要



・学習支援者養成講座はH22年度(2010年)に開始したが、H27年度(2015年)より、各地域に「出前」のように出向く講座も開始。



・大都市に集中しがちな養成講座を、講座を必要とする地域で行うことにより、広く「生活の漢字」学習支援について普及することを目的とした。コロナ禍より、オンラインでも実施し、さらに参加しやすい機会を提供している。

・各地域の実情に沿った内容を取り入れながら、文字学習支援の必要性や支援方法の理解と普及に努める。R4年度より、学習者も参加し、支援者と共に生活の漢字学習を体験し、学習の継続に繋げる講座も実施している。

養成講座実施内容

- ①学習支援者のみ参加型講座：対面もしくはオンライン
- ②学習支援者および学習者参加型講座：対面

●主な講座内容

座学

- ・「生活の漢字」の理念と背景
- ・地域における日本語支援の意味と意義
- ・人権としての識字教育
- ・「生活の漢字」学習支援の方法
- ・漢字学習のシラバスを考える

実習

- ・「生活の漢字」出前教室（漢字探検/漢字学習）
- ・「生活の漢字」教室見学・補助者としての参加



『生活の漢字』学習支援者養成講座実績

平成22年度～令和2年度（開催地、総数）合計47件

平成22年度

- ・大阪府枚方市（1件）

平成23年度

- ・大阪市、大阪府堺市、石川県小松市（計3件）

平成24年度

- ・大阪市、栃木県宇都宮市（計3件）

平成25年度

- ・大阪市、静岡県浜松市（計2件）

平成26年度

- ・大阪市（計7件）

平成27年度

- ・大阪府大阪市、大東市、枚方市、八尾市、岡山市（計5件）

平成28年度

- ・大阪府大阪市、豊中市、兵庫県明石市、神戸市、東京都目黒区、和歌山市（計8件）

平成29年度

- ・大阪市、兵庫県三田市、豊岡市、滋賀県甲賀市（計4件）

平成30年度

- ・大阪市、兵庫県明石市、神戸市、滋賀県湖南市、広島県福山市（計5件）

平成31年度・令和元年度

- ・大阪府大阪市、茨木市、吹田市、兵庫県三田市、姫路市、和歌山県紀の川市（計6件）

令和2年度

- ・大阪府岸和田市、豊中市、愛媛県松山市（計3件）



養成講座(R3～R5)実施実績 合計15件

①文化庁事業で実施(3件)

- R3年度 コーディネータのための「地域における文字学習支援」研修
8月28日～11月13日(6回連続講座＋教室見学) (オンライン＋対面)
- R4年度 地域に合わせた「出前漢字教室」(大阪府茨木市・兵庫県加東市)
1) 茨木市実用日本語学習会／茨木市中央公民館／いのち・愛・ゆめセンター合同
11月20日(支援者と学習者参加型講座 対面)・12月4日(支援者対象講座 対面)
2) 加東市国際交流協会
1月19日(支援者対象講座 オンライン) 2月17日(支援者と学習者参加型講座 対面)

②事業外で実施した団体(12件)

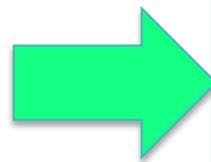
- R3年度 大阪国際交流センター(9月20日オンライン)
大阪市立総合生涯学習センター(11月20日 対面)
茨城県水戸市国際交流協会(3月5日オンライン)
新潟市国際交流協会(3月19日 対面＋オンライン)
静岡県浜松国際交流協会(3月25日オンライン)
- R4年度 大阪市立天満中学校夜間学級(6月21日 対面)
福岡県北九州国際交流協会(8月24日オンライン 10月22日対面)
大阪市立総合生涯学習センター(11月12日対面)
周南市・山口県国際交流協会(11月19日 対面＋オンライン)
静岡県磐田国際交流協会(2月4日 オンライン)
- R5年度 兵庫県公益財団法人明石文化国際創生財団(9月9日対面)
大阪市立総合生涯学習センター(10月28日対面)



「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業

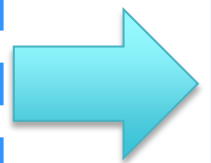
「生活の漢字」学習支援事業の成果

①「生活の漢字」 学習の場の提供



- ・大阪に加え、神戸(R5)において生活の漢字教室を開催した。
- ・外出が難しい参加者でも自宅から「生活の漢字」教室に参加できるように、子育て世代を対象としたオンライン講座を開催した(R3,4,5)。

②「生活の漢字」 学習支援の理解と普及



- ・出前講座やオンライン講座という形式を取り入れ、文字学習支援者養成講座を希望する地域で講座を開催した。
- ・コーディネータを対象に文字学習支援に関する講座を開講した。また受講生を中心としたネットワークを構築した(R3)。
- ・「生活の漢字」学習の意義と概要を解説した6言語によるリーフレットを作成し(R4)、配布した。

『生活の漢字』をかんがえる会からの情報発信 リーフレット インスタグラム「SEIKATSUNOKANJI」

